

# 特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

## 令和4年度 第4回理事会 議事録

1.開催日時 令和5年2月15日 午後7:15～午後9:15

2.開催場所 ZOOM会議

3.理事総数 12名

4.出席者数 6名（書面表決書3名）

出席者（山西哲郎、宇佐美彰朗、保原幸夫、森川貞夫、小林均、比嘉正樹 敬称略）

書面表決書（前河洋一、岩山海渡、鈴木良雄 敬称略）

5.議長選任 議長として山西哲郎氏が選出された。

### 6.議事の経過の概要および議決の結果

第1号議案 前回理事会（10月20日開催分）議事録に関する件

保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったので承認されたものとする旨報告があった。

第2号議案 議事録署名人の指名について

議事録署名人として宇佐美彰朗氏と保原幸夫氏が選出された。

第3号議案 令和4年度事業報告書案および収支見込みについて

保原氏より当年度の事業報告書案と収支見込みについて説明があり、事業報告書および活動計算書の内容については承認を得られた。確定版について最終承認を得た後に東京都に提出する。

#### 【事業報告書案の概要】

##### ●ランニング教室

「J S I E エコノミカルランニング教室」、「熟年ランニングスクール」とともにコロナ騒動の影響で、参加人数は2019年レベルにはまだ戻っていないが、少しづつ増加の傾向が認められた。延べ参加人数および事業規模は、「エコノミカルランニング教室」が80人、12万円、「熟年ランニングスクール」が220人、29万円程度になる見込である。収入分を講師料としているので、収支は±0である。

##### ●唐澤剣也選手講演会

パラリンピック銀メダリストの唐澤選手の講演会に、障がい者スポーツに関わる地元有志達40名が参加。参加費としては資料代としての500円しか徴集しなかったので、収支としては1万5千円の赤字となった。

##### ●北海道マラソン教室

昨年同様、講師派遣という形でマラソン前日にE X P O会場の特設ステージでのトークショウに前河副理事長が登壇した。参加者は100人程度だった。実費精算という形をとっているので、収支は千円程度の黒字である。

### ● 2022 メルボルンマラソン

3年ぶりに海外からの参加が可能になったが、コロナ騒動の影響に加えて、円安、原油高の影響もあり、参加者は27人に留まった。その結果、単年度の収支としては54万円程度の赤字となった。定款記載の事業名では便宜上、現地交流事業と、参加者集客事業に分けているが、それぞれは35万および19万円の赤字となった。中小企業庁から支給された税引き約400万円の各種事業継続支援金を活用して、早期に黒字にすることが今後の課題である。

### ● 「大船渡アスリート応援団」の支援活動

ロッテの佐々木朗希投手登板試合を中心に観戦応援の支援を行い、延べ96の方にZOZOマリンスタジアムに足を運んで貰った。事業規模としては35万円程度だったが、事務手数料を含め実費精算としたため、収支は±0となった。

### 【収支決算案】

経常収益；¥2,586,139、経常経費；¥2,643,031となり、税引前の当期経常収支は△¥56,892となり、これに税金¥206,000を加味すると、次期繰越正味財産は2,877,276になる見込みである。

### 第5号議案 令和5年度事業計画案について

●保原氏より、「2023 メルボルンマラソン日本事務局」および「J SIE エコノミカルランニング教室」、「熟年ランニングスクール」、「北海道マラソン教室」については継続実施したい旨提案があった。

なお、比嘉氏よりメルボルンマラソン事業で実施している「CPECへの寄付活動」は独立した事業とした方が良いのではないかとの提案があったが、保原氏よりNPOの報告形式がそのようになっていない、寄付活動はどの事業にも含まれる性質のものであり、単独事業とするのは難しいとの説明があった。

●山西理事長より唐澤選手の講演会をきっかけとして、引き続き障がい者スポーツの支援など社会貢献をテーマとしたセミナー、シンポジウムを継続実施したい旨提案があった。

●比嘉氏より、①北海道、沖縄などに向けての健康ツーリズム、②大村嵐氏講演会、③資生堂駅伝チーム講演会などの提案があった。

継続事業は事業計画案として計上するが、新規事業については、これまでと同様、実施体制、予算などが明記された企画書が提示された時点に理事会で審議し、実行に移すことにしたい。

### 第5号議案 次期（令和5年度、6年度）役員の選任について

山西理事長に対して現役員（理事、監事）から辞任等の申し出はないとのことなので、全役員再任ということになった。

第6号議案 その他

■次回理事会について

会計書類が確定する4月後半に開催することになった。

新規事業について、その時点で企画書ができていれば計上することになった。

■J S I Eの将来構想について

比嘉氏より、中期・長期にわたる将来構想を明確にすべきだとの提案があった。

皆さんからの将来構想案が提示された時点で、理事会で審議したいと思う。

以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後9時15分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和5年2月15日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議 長

山西 敏洋



議事録署名人

宇佐美彰朗



議事録署名人

保原幸夫

